

中齋塾 東京フォーラム
平成 27 年度 第 10 回講話

平成 27 年 11 月 14 日
於 湯島聖堂

おはようございます。この間、中齋塾の会員さんの勉強会・国分論語塾が 10 周年を迎えまして、記念講演を頼まれました。最初に打ち合わせをした時は「集まる方々は中小企業の経営者ばかりです」という事でしたので、そういうつもりで行きました。行ってみたら、農家の方々がたくさんいらっしやっていて特に女性が多かった。私は来られた方に合わせて話をしますから、ちょっと方向転換をしてお話をしました。

会場には百数十人おられたけれども、どなたもちょっとは満足していただくために、どの程度の分量で焦点を合わせるか。中小企業経営の方、それから農家の方、自営の方、主婦の方、それぞれに合わせた話を切り取りしながらお話をさせていただきました。

<生業>

生業とは、生きる業。自分のことだけ考えている生業。それから家業は、家のこと、家族のことを考えて行っている家の生業です。それから企業は人を雇って仕事をする場合。企業の場合は、大企業から中堅中小零細とある。

新聞の記事でマイナンバーについて、日本の国の事業者は、大企業から個人事業主まで含めて 800 万をちょっと出ますと紹介していますから、大企業と中小零細を同じ土俵に乗せて論ずる事自体これはおかしいなと思っています。それで先程の国分論語塾で、「何か事業しておられる方は?」「家庭の主婦専門の方は?」等々、ちょこちょこ質問をして、その反応を見ながら講演をしました。感想を聞いたら、前半はあちこちに色々飛んでいるけど、後半は面白くなってきたとありました。それは大多数の方が、大体ここら辺の話だと良いなと見えてきたので、後半になって絞り込んで話をさせてもらったので、満足していただく方が後半は増えたと感じています。

中齋塾フォーラムの場合は、皆さまの反応を一切気にしないで話をしますから、私にとっては気が楽で、つい本音もポロリポロリと出てくるから、聞いていると面白いということではないかと思います。

先ほどの挨拶で猪瀬理事長の話がいくつか気になったので、猪瀬理事長の話をいただくことに致します。

論語で「汝は画れり」という孔子の科白があります。自分で自分の能力をここまでと、

なぜ見切ってしまうのだ。なぜ自分の人生ここで終わりにするのかという「汝は画れり」という科白がありますけれども、今日の話はそこです。

毎年年末になると来年は何をやるかと色々考えます。非常に結構なことをごさいます、考えて長い準備期間を経てするものと、思い出して即座にやることと色々あると考えています。

例えば、ダウンジングというものは、鉱脈を発見することだと思いますが、地下に眠っている物は鉱脈だけではないそうです。その他の物も、けっこう埋まっているようでございまして、地下に素晴らしいものが眠っている。それをダウンジングで見つけ出すことを聞いた瞬間に、原生林とか先住民族とかですね、そういう物が浮かんできました。

また安岡先生の科白で「何かに挑戦せよ」とありますが、さて私は何をしようとしているのかなと考えました。

今年は自分が創業した会社の代表取締役会長を降りると前に申し上げました。会社からみるといわゆる引退です。引退するにあたって来年の準備をしていきますと、今、日本の税金は、よくないなとつくづく思います。

来年のことを考えてみたら**「生計」**を考えてしまった。税務署はまったくけしからんと思うことは、人様の会社の懐の中に手を突っ込みます。来月で引退をしますが、会社からもお給料を頂こうと考えて、それなりに計算していました。そしたら税務署が、従来のお給料の半分以上は取ってはいけません、半分以下でなければいけない等々、人の会社に嘴を突っ込んできます。

岩崎弥太郎が「三菱は、株式会社の体をなすといえども、全て岩崎弥太郎個人に属する。従って会社が利益を上げた物は、全て岩崎弥太郎一個人に属する。そして会社が失敗をした場合には、岩崎弥太郎一個人において全て責任を取る」ということを言明しています。日本に資本主義が生まれて、岩崎弥太郎型の経営者と渋澤栄一型の経営者が日本に生まれましたけれども、税務署というのは後から追っかけて、どうやってお金を取ろうかということの極まれりだと思っています。

おまけですが、私が引退したあと会社から頂く給料を計算してもらったら 7 割は天引きされるそうです。細かなことをいうと、住民税は今まで取っていた分そのまま。厚生年金・健康保険は、若干減るけれども、ほぼ現役通りに取る。それから介護保険税…とにかくずっと計算をしていくと、どんどん天引きされていきます。経理担当者が「良かったですね。8割でなくて7割で済みます」と言っていました。これは日本から逃げ出したくなる人が増えるのは、ごく当たり前のことです。

税務署の話をしようと思って話したのではないけれども、けしからんと思うからついつい喋りだしてしまいましたが、来年は「はかりごと」を一つしようと思っています。それから今、世の中を見るとホールディングスというのがあまりにも多い。いわゆる持ち株会社ということで増えています。持ち株会社というのは、その会社の株式を所有して、

その会社を支配する。経営権を握るというふうに解釈されています。別に支配権を握ろうとか経営権を握ろうという感覚はないですが、次年度は経営に関して一区切りをつけようと思います。今までは体を使って汗水垂らしたので、これからは頭を使って動いてみようかと考えました。ということで、来年は色々な方に手伝っていただきますので、宜しくお願いを致します。

来年は何をやるかというところとホールディングスの研究をと思っと思っています。新しいことにチャレンジです。この間コンサルティングを営している会社の社長と話をしたら、あの人はちょうど80歳で「70歳はね、人生の花盛りだから、ちょうど旬でいいですね」と言っていました。まあそんなことで来年は、やりたいことをベースにして広がっています。

それから、本はとりあえず2冊執筆予定です。その後は、洪澤栄一が口述筆記された『論語講義』をお手本にして、私も現代に通じる論語解説をさせていただきたい。そういう本を書きたいと思っています。洪澤栄一の論語講義の中身について私が引き込まれたのは、その当時、明治時代の人物評論に引き込まれました。その時代の明治政府の歳入歳出。それから人権費削減など、そういうことを現代で聞くと、おやっと思うようなことがいっぱい入っていますので、もう一度そこら辺を分析し直して、それを上回る物を書きたいと思っています。それが終わったら陽明学は一段落だと考えています。

理事長から出てきた話をしていましたら余談がいっぱい出ました。

恒例の質問

今年も段々暮れてきました。来月は今年1年を振り返ってとお聞きしますので、今回はその予行練習です。

・先月1ヶ月間ぐらいを考えていただいて、先月は良い月だったな、だいたい良い日が続いていたという方どうでしょう。

・ここ1ヶ月間ほど、嘘は比較的つかなかった。

最近、ほどほどにしています。矢野弾さんが「きちっとやり過ぎると色々問題が起きますよ」と、フォーラムの中だけでは問題はないでしょうけれども、だんだん他所に広がっていくと、そこまで四角四面にやられるときついと言うことです。

・1ヶ月間は、有難うと言ひ、言われることが比較的多かった。

私は寝る時に良い日だったかなと思っ寝ますが、いつも朝起きてから夜寝るまでの間で、良いと思っことは思い出しながら、これ良かった、あれも良かったと思うように数えていましたけれども、最近は違います。

漠然として良かったかなと思っ時に、ふっとな誰かの顔が浮かぶ、または何かの事象が

浮かぶ。それで後はもう考えないで、あっ良かったな。それで嘘もついてないと思ったら、これはもう思った瞬間、合格です。

有難うと言いわれたかは、有難うと言ってくれた人の顔がふっと一人浮かんだら、それで「良し」とします。有り難いと思った時に、一番有り難く感じた人の顔が浮かぶ様に今、訓練中です。あんまり幾つも考えないでふっと浮かんでくる。

・ここ1ヶ月間は健康法を実行し続けていると思う方がいいかでしょう。

健康法は呼吸法ぐらいで良いでしょう。私、家に帰った時だけにしています。健康法も色々な健康法を挑戦しています。一つこれが良いと決まったら、それにプラスアルファして、いくつかやると良いでしょう。

・昨晚寝る時に明日を過去形でイメージして寝た方。夕べ、今日もしくは今日以降のことを過去形でイメージして寝た方。

全部イメージ通りで出来て良かったなと思うイメージで寝ると良いですね。あれこれとやろうではなくて、これをやって自分なりに満足したほっとしたで良いと思います。

紹介書籍

『論語と算盤』 渋澤栄一述 国書刊行会

『創業者を読む①論語と算盤』 渋澤栄一述 大和出版

『論語と算盤』 渋澤栄一述 角川ソフィア文庫

論語の視点<子路第十三>

今回の「論語の視点」は、現代に通じるものが、そのままそっくり出ているような気がします。当フォーラムの哲学は「足るを知る」知足ですので、それを踏まえながら論語を見させていただきます。

【二十八】子路しよ 問といて曰いく、如何いかなるをか斯これ之これを士しと謂いうべきと。子曰しよく、切切せつせつ惓惓しし、怡怡い如じよたるを、士と謂いうべし。朋友ほうゆうには切切せつせつ惓惓ししたり。兄弟けいていには怡怡いたりと。

【二十九】子曰しよく、善人ぜんにん 民たみを教おうるしこと七年しちねんならば、亦また 以もつて戎じゆうに即つかしむべし。

【三十】子曰しよく、教おえざる民たみを以もつて戦たたかうは、是これ之これを棄すつと謂いう。

「切切惓惓」よりは「棄民」の方がよいと思いますので、棄民から申し上げます。

【三十】「子曰く、教えざる民を以て戦うは、是れ之を棄つと謂う」という部分の「棄民」は、戦い方を教えないで、戦に送り出したら、当然戦い方を知らないから負けます。

日本が戦争に負けた時は竹槍でした。竹槍を持って藁人形に向かって突っ込む動作を教えていた。あれは精神的には良いのかもしれないが、爆弾を一発落とされたら、それで終わりです。

孔子曰く「**教えざる民を以て戦うは**」戦い方を教えない、技術を教えない、精神的にも教えてない。ただ「戦に行け」ということで戦に出したのでは、これは民を見殺しにするということです。

それを現代に置き換えて考えてみると、憲法改正の話です。今の日本憲法は日本を損なうものであると安倍首相は考えているようなので、真正面から今の憲法について、ここが良い・ここが悪いと、堂々と論陣を張るべきです。日本国政府は、誤魔化しながら嘘をつきながら日本の国を運営していますから、それがすっかり体に染みついているのではと感じます。体にすっかり染みついているものだから真正面から論陣を張らないで、誤魔化して法律を通そうとして、進めています。国民にきちんと説明をしない。このままの状態、もし仮に戦争が起きたら日本は棄民という状態にされると感じます。

時事評論と少し繋がりますけれども今日の新聞でおやおやと思ったものがありますので、そこらへんは絡ませながら話をします。

ということで「**子曰く、教えざる民を以て戦うは、是れ之を棄つと謂う**」この棄民の考え方は、今回のテーマと絡みますが、道徳心が欠如しているからだと思います。政治家は人様のためにとって動いていない。自分のために良かれと思って動いている部分が多すぎます。

この時代は…と考えれば、やはり世のため人のためという考え方・道徳心というものを表面に出してこなければ、日本の国はやはりおかしくなるし、世界の国々もおかしくなる。

【二十八】「子路問いて曰く、如何なるをか斯れ之を士と謂うべきと。子曰く、切切偲偲、怡怡たるを、士と謂うべし。朋友には切切偲偲たり。兄弟には怡怡たりと」

孔子は、やんちゃな子路が可愛いと思っている。子路が孔子の所に現れた時のスタイルは今でいえば暴走族でしょうか。暴走族の親分みたいな者が、体に首から腰から何かガラガラぶら下げて、沙悟浄がしゃれこうべを体中にぶら下げていたような格好で孔子の前に現れて、孔子に言い負かされて弟子になったという経緯があります。

その子路が孔子に「どういう人間を人物と言うのでしょうか」と、質問をしています。

孔子が、相手のために思って誠心誠意に接しているか、自分勝手に接していないか、相手にとって、ちっともためにならないことを一生懸命に、これが誠だと思ってやっていたら氣をつけなさい。

そう考えると、子路は相手を威圧する部分があるから、もっと和らいだ良い表情で子供が懐いてくるような、そういう雰囲気を作りなさいと、孔子が子路に対して欠点を指摘したと見ればよいでしょう。そこら辺をきちんとすれば、人物と認めてあげるぞということでしょう。

「切切」は誠を尽くすという意味です。誠を尽くすとは何かと申し上げれば、「嘘をつかない」と三島中洲が断言しています。

「惓惓」は、内容をきちんと細かく相手が分かるように、納得するように説明をする。そして尚且つ励ますということです。

ここで書いてある「切切惓惓、怡怡如たる」は、人様と会話をする時には、兄弟・身内の人間には、ゆっくりのんびりとやれば良い。それで他の人には誠意を尽くすよう努力すると理解ください。

「朋友には切切惓惓たり」は、同輩・後輩または先輩に対しても、子路は自分で良いと思うと直言し過ぎる。丸みがないという感じがします。「兄弟には怡怡たり」と兄弟はさらに厳しい感じがしますから、もう少し和らいだ表情をしなさい。

孔子は子路に対して、相手によって自分の話し方を変えなさい、態度も変えなさいということを示しています。

【二十九】「子曰く、善人民を教うる事七年ならば、亦以て戒に即かしむべし」

善人というのがちょっと引っかけますが、国民に対してきちんと教育を7年間するならば兵役に就かせてもよい。

私は現代の様子をみていると徴兵制復活というものが頭の中に浮かびます。

孔子の頃は、何にも教えられないまま人間を盾にして戦に出した。なので7年間教えれば何とか兵役に就かせることは出来るであろうと捉えればよいでしょう。

教えるというのは戦争の仕方だけを教えるのではなくて、人間としての道を教えると捉えて、人間としての道も教えるし、仕事の仕方、特にこの時代は農業の仕方を教える。農民が多いから、農民が農民としての道を全うする。そういう教え方を7年間続けたら兵役にも行ってくれるだろうし、戦力にもなるだろう。現在の日本を考えれば、これはあり得ません。

先ほどの棄民ですが、現在の日本は完全にこの状況になっている。二十九と三十はセッ

トにしてよいと考えます。

やっぱり我々は戦い方を覚えておく必要があります。別に鉄砲をとということではなく、自分の身を守るということです。守り方は最低限、何でもいいから練習した方がよいと思っています。

今月のテーマ

道徳経済合一説（日本資本主義の原点）

誰が日本の道徳心を欠如させたか。これは最近の話ではありません。洪澤栄一の『論語講義』を見ても書いてあります。今の政治家が墮落したことは、もう筆舌につくしがたいというようなことを洪澤栄一が言っています。

論語は何故できたか。当時の古代中国は道徳心が欠如している社会だったので、孔子が色々と道徳心を説いていました。その説話をお弟子さん達が一生懸命に書きとめたものが『論語』になりました。人間の心の中には道徳心はあるけれども、「荒廃した」と言い続ける DNA があるのではないのでしょうか。

ローマも同じですね。昔に書かれた文字をやっと解読したら「最近の若い者には困ったものだ」ということが書かれていたそうです。たぶん他の古代文明も調べれば「最近の人達の道徳心の欠如は困ったものだ」みたいなものが出てくるのではという気がします。

テーマが「道徳経済合一説」ですので、「道徳」をベースで考えていくと、日本の国は官も民もどちらも道徳が欠如していると、私は考えています。特に官が酷い。

今始まっているマイナンバー、あれは私が見ていると日本の国の借金、これが多過ぎるので税金を取らないとどうにもならないから、税金を取りたいという一念が凝り固まってマイナンバーに繋がっている。だからマイナンバーを進めるということは税金をふんだくるという意思表示である。残らずかすめ取ろうとしている事と、それを進める事によって事業が拡大するなんて、詐欺とは言わないけれども、心にもないことを言い出していると感じます。何故それが進んでいるかといったら、官僚が何とか機構を作るのと同じような物で、天下り先を作ろうとしていると私には見えます。税金の確保と官僚の天下り先を作らんがためにマイナンバーが進んでいるというふうに見えます。

もう一つ出てきたのが、日本原子力研究開発機構がもんじゅを運営しているわけですが、それに対して原子力規制委員会が、無駄使い極まれりという勧告をした。内輪の中から段々出てきたなと感じます。

NHK を批判するのも出てきている。NHK を批判するんだと思ったら、刃ひるがえして政府を批判したのも出てきたし…でも官が、信用できない嘘をついている。詐欺をしている

ると私は見えてしょうがないです。そこら辺をベースで考えると、道徳が欠如、道徳経済合一説ですね。

日本の資本主義が出来た時、渋澤栄一は「道徳」を特に重要視して、日本で初めての銀行をこしらえた時には、「あらゆる事業体は、全てトップの人物によって発展もするが衰退もする」と言っています。特に会社経営については人物いかんによると言っています。それで企業は、社長の人物いかんによるものだから、第一国立銀行は渋澤栄一が創立した銀行ですが、企業にお金を貸す時には「担保優先にするな」と「担保を取って駄目にはいけない」と言いました。まず第一番は、その社長の人物いかんであり、そして日本の国のためになるという考え方を持っているかどうか。その社長の人物が良いかどうか見抜いた上でお金を貸せと言いました。したがって銀行員たる者は社長の人物を見抜く力を持っていなければ銀行員の資格はないと最初に言い切っています。

そういう点から見ると、今、旭化成が賑やかですけども、ひと頃は偽装という話が非常に多かった。官僚も政治家も経済人もひっくるめて、どれもこれも皆、道徳心の欠如です。

この間、中斎塾北関東フォーラムの会員さんが県会議員になりました。それで県政報告会に誘われましたので行きました。多くの政治家が来て喋っていました。聞いていて、空々しいことを判で押したように同じような科白、言い方で歯の浮くようなことを話していましたが、この人達が日本の国の根を握るポジションにいるのか、とんでもないなと思って腹に据えかねながら聞いていました。それでその後、司会者が「人生の師であります深澤さんにお話をいただきます」と紹介がありましたので、壇上に上がりましたが、まだ会場がざわついています。眺めますと、会場の後ろは食べにきた人達がたくさんいました。前の方は表になる人がいました。一番前には政治家や県会・市議員がいました。

それでマイクを持って喋り出したら、会場の後ろの方は一所懸命に食べているのが目について、けしからんと思ったから「論語を知っている人」と言ったら、前の方は手を挙げましたので、論語の話をちょっとして「これから日本は食糧危機がくるの分かっている？」と、壇上から下にいる雑談をしていた国会議員に向かって話したら、当然のことながら雑談は終わった。壇上と下にいる皆さんとやり取りをしたら、まあ皆さん聞いていただいていたので、これから日本は食糧危機がくるということについて話しました。会場の人達は「承知しています」、「分かっています」、「手を打っています」と返事をするので、よう空々しいことを言うわいと思って話をしましたが、空々しいことだらけでした。

時事評論

昨日の新聞で、介護の受け皿 6 万人上積みと書いてあります。これを見た瞬間に思い出

したのはついこの間、介護に関係しては補助金制度を充実させる、加算金の制度を充実させて介護に従事している職員 1 人あたり 1 万 2 千円の給料を上げることが新聞に出ていました。

それだけ見ると、加算をしていない老人ホーム、または介護の会社があればそれは摘発とまでは言わないけれども、調べて問題にしなければならないみたいな事が新聞に書いてあります。

私は見た瞬間に、政府は詐欺を言うなと感じました。介護の関係者に確認をとりました。1 人あたり 1 万 2 千円のお給料が上がるように政府は段取りをしたと新聞発表になっているけれども、それは大きい制度を作って全体の介護に関するお金はどんと減らす。でも減らしただけでは駄目だから少し良さそうな旗印を掲げて、かなり厳しい条件を付けて、その条件を全部クリアした会社の職員は 1 万 2 千円ぐらい上げられるようにする事ができる。針の穴を突いたぐらいの、ほんの少しのものだけを大きく打ち出しています。新聞記事だけを読むと、全介護関係の人達はみな 1 万 2 千円上がると思ってしまう。それをしない会社は糾弾をしますと新聞に書いてあるけれども、実態はどうでしょう。政府としては全体のお金をどんどん下げようとしているから、喜ぶ人がほんの少々いても殆どが泣いていると、私はその記事を読みました。

それで現実の世界はどうかと申しますと、「その通りです」という答えが返ってきました。原子力の話もそれとそっくり同じだと思っています。良さそうに見えるものが出てくるけれど中身は違う。後から違う方向に持っていくための複線ではないかと思います。

<干支>

先ほどの休憩時間に、「干支のことは、話さないんですか」と聞かれました。今、季刊誌・『知足』に載せる草稿を書き終えたところです。これから練ります。だからまだ練りきってない部分の話です。

「丙申（へいしん ひのえさる）」の学説が二つに別れています。「丙（へい）」という字の解説が二通りありました。

加藤常賢先生は「机の上に犠牲者の首が乗っていて、それを手で押し出している」ことが、この字の元であると言います。

白川静先生、菅野道明先生、諸橋徹次先生、それから安岡先生は、同じようなことを言っておられます。丙は冂（かこい）という字で、門を表します。門の中に陽氣が生まれて、前に向かって進んで行くことが生まれている。ただしその中にちょっと翳りが出てきているという字です。大きな問題が発生した時の対処を誤ると、一変に転げる。それは陰氣を生ずることが出ます。

学説もまるで違い両極端なので面白い。私はその両方を加味して「丙申」を見ました。両方を加味してというのは、やっぱり犠牲者の首は乗っかってなきやおかしいと思ってい

ます。簡単な言い方をしますと、来年は今年と同じです。

皆さん今年の初めに話したことを覚えていらっしゃいますか。私は「今年は綱渡りの年です」と言いました。

新興勢力が生まれて、どんどん伸びていくように見える。一見良さそうに見えるが、足を引っ張る人達が出てくる。全体的に見ると、景気は良くなるように見えるけど、実態は酷い。ある日突然とんでもない事が起きる。食糧危機や戦争も始まるかもしれないし、動乱が起こる可能性がある際どい年という言い方を今年の1月に言いました。来年はその緊迫の度合いは更に増します。

中国はアメリカと正面切って対峙するのは避けるけれども、水面下で交渉している。太平洋の真中で線を引いて、こっち側はアメリカで、そっち側は中国と分けて取りましょと堂々と言った。来年は実力行使に入ると思います。だからかなり際どい度合いが酷くなるが、中国は大きな顔をしてやりだす。

それから経済的に中国があちらこちらに今年は手を打っていたけれども、来年はもっと強烈にやるでしょう。何故なら自前の銀行を持ちましたから、自前の銀行を持って東南アジアの国々に金をもっとばら撒きます。例えばミャンマーに対しても今回アウサンスーチーさんが、まだスタートはしていませんが政権を取ったという報道です。そうするとアウサンスーチーさんが政権を取ることを想定して、アウサンスーチーさんを国賓待遇で中国は迎えていき、ミャンマーに経済協力をどんどんする。自分の勢力がまっすぐ行くような手を打っています。したがって、来年は今年の緊迫の度合いを更に強めるし深める。一触即発がごく当たり前の時代になると考えます。

その丙申の丙、この字形から何でそういうことが出てくるかという話は、また書きますからお読みください。

政局でいうと安倍さんが外交努力でなんとか持つだろうという感じがします。安倍外交は外交努力でというより、ばら撒きばかりです。ばら撒きをするから、諸外国はゴマ擦りをします。それに乗って安倍政権は何とか持つでしょう。でも、他の政党、民主も酷い、維新の党も、まあ酷い。

自公政権は税金対策・マイナンバー・消費税、内側の物はくすぶっているけれども、外交で安倍さんは国民の目をそちらの方に引きつけて、国内の問題が出てくる時にはロシア・中国・北朝鮮・韓国は日本を叩いてくるから、叩いてくれると国民の目はそちらの方に向かいます。そうすると華々しい外交と外国から色々と言われる部分に対して安倍政権に対する批判の目は、その時ごとに出てはスッと消えると思います。森さんが落ちた時の対応と比べると、国民に伝わらなければ話は見えませんが、冷や冷やしながら続いていると思います。

今年も政局は綱渡り、自分の綱は外交努力にあると安倍さんは見ていると思いますから怖いですね。

今日は用意した新聞を幾つか言います。読売新聞 11 月 14 日「もんじゅ運営別組織」官が腐敗し墮落した。道徳心の欠如極まれり、それに小細工が入ってきているということで、官の腐敗が一面に出ています。

他の新聞を見ましても、もんじゅ、旭化成、アウサンスーチンさん、それぞれ一面トップに出ています。旭化成もどうしようもないから載っている。これは建設業界が皆似たようなことをしている。そうすると官が腐敗し、民が腐敗し、それから他の国も腐敗したというのが、ドーピング。ロシアは国ぐるみでドーピング。国ぐるみでやるだろうなど、皆そう思いながら見ます。

ただ、我々が気をつけなきゃいけないのは、新聞は話半分と思って見る。それからテレビの NHK のやらせが出ていました。あれは可愛いことを言っていると思います。

この間「花燃ゆ」という大河ドラマの中で、実話をドラマにしているように見えますけれども最初の 3 話まで視聴率を上げるために全部話を作ったと聞きました。言い方を変えると嘘ついたということです。嘘をついて視聴率を上げようとしていることは、全然指摘しない。一体何なんだと思います。テレビのドラマは性質が悪い。フィクションであれば良いのですが、ノンフィクションだったら、やっぱり事実にもるでない事をでっち上げるなと思います。

尖閣諸島について自衛隊が警戒強化と書いてあるけど、中国に対して日本はこう手を打っているということが書いてあります。ただ、それでも世界が今揺れ動いていると出てきています。

それからアメリカの政権が変わったらどうなるか。アメリカと中国はよく並んで出ていますので、新聞を見る時に私は気をつけてみます。

世界の中で、中国・アメリカは水面下で、どういう取引をしているかを見るようにしています。結構ね、裏取引しています。

我々が考えるべきことは、新聞を見て、テレビを見て、前は話半分と思っていたけれども自分で結論を持っていないと、または判断基準、物の見方を持っていないと惑わされます。自分の判断基準をきっちり今ほど持ってなければいけない怖い時代に入っていると思います。来年は特に大本営発表が形を変えて出てきますから、それが怖いです。

以上で終了とさせていただきます。有難うございました。